

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（一般研究）

研究代表者 所属・職名 臨床・健康教育学系、准教授

氏 名 留目 宏美

研究期間 令和3年度

研究プロジェクトの名称	通級による指導の教育課程における学校保健情報の活用に関する基礎的研究
研究プロジェクトの概要	<p>昨今、軽度の障害を持ち、通級による指導を受けている児童生徒の増加は著しい。通級指導の対象となる児童生徒は、様々な困り感や「生きづらさ」を抱えながら生活している。非対象児に比べて、心身の不調を感じやすいという特徴も指摘されている。このことから、通級による指導において特別な教育課程を編成する場合、児童生徒の心身の健康課題を十分に踏まえ、実態に即する必要がある。しかしながら、通級指導の実践過程において、対象となる児童生徒個人々の健康に係る情報がどのように統合され、活用されているのかは、管見の限り、明らかでない。</p> <p>そこで、本プロジェクトでは、健康に係る情報を統合・分析し、「個別計画」に明確に位置づけ、健康の保持・増進をめざした通級による指導を推進するための諸課題を明らかにする。</p>
研究 成果 の 概 要 ※申請時にチェックした「取組課題」との関連とその成果も明記すること。	<p>本プロジェクトを通して、心身の健康の保持・増進の点から、通級指導を受けている児童生徒の学び（自立活動を中心とした教育課程）の実態の一端を把握し、諸課題を明らかにできたことが、大きな成果である。</p> <p>特に重要な課題は、自立活動の6区分の観点にもとづいて、児童生徒の実態理解をし、教育課程を編成する必要性である。そのためには、障害や発達特性に応じて、いずれかの観点到傾斜することなく、6区分すべての観点から総合的に児童生徒の実態を捉え、分析する必要がある。さまざまな視点から児童生徒を観察し、理解している教職員や地域の関係機関の有する情報を統合することが欠かせない。その仕組みが「個別計画」であることから、その作成、活用プロセスにおける連携システムをどのように整備していくのか、そのポイントを見いだすことができた。</p> <p>さらに上記の成果は、オンライントークイベント（テーマ：特別なニーズを有する子どもたちの学びを問うー心身の健康づくりに着目してー、会期：令和4（2021）年3月5日13：30～16：30）を通して発信し、参加者とともに共有できたことも、成果の一つと捉えうる。</p>
研究成果の発表状況	「《令和3年度NITS・上越教育大学教職大学院コラボ研修》多様な子どもたちの学びを支える通級担当教師の実態把握力向上のための研修」において、研究成果の一部を発表した（発表テーマ：子ども一人一人のニーズの理解と支援～不定愁訴のある子どもの場合～、会期：令和3（2021）年12月21日（火）15：50～16：40、オンライン発表）
学校現場や授業への研究成果の還元について	<p>上述したとおり、令和4（2022）年3月5日（土）13：30～16：30、オンライントークイベントを開催し、通級指導を受けている児童生徒の健康の保持・増進をめざした教育課程編成のあり方について検討・協議した。</p> <p>次年度は、本学研究紀要等にて成果を公表する。また、様々な研修会や授業（学校支援プロジェクトを含む）を通して現場に還元する。</p>